

科目名	聴覚系の構造・機能・病態			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	15回	時間数	30時間 (1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科2年	必修・選択	必修	
〔授業の目的・ねらい〕								
聴覚系の抹消から中枢にいたる構造や神経機能、病態などを学ぶ。								
〔授業全体の内容の概要〕								
基礎的学習として神経生理学を終えてから聴覚系の構造・機能とその病態と障害を学ぶ。								
〔講師の実務経験〕								
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕								
本科目は言語聴覚の根幹を成すものであり、したがって学習者に相応の努力を（毎回の予習と復習）が求められる。そのため授業への集中度をチェックする方策を導入する。								
回数	講義内容							
1	神経系の構造							
2	シナプス伝達							
3	少数のニューロン回 反射							
4	運動系の統合機構							
5	外耳と中耳							
6	蝸牛 ①							
7	蝸牛 ②							
8	聴神経 ①							
9	聴神経 ②							
10	蝸牛の変換機構と興奮機構 ①							
11	蝸牛の変換機構と興奮機構 ②							
12	脳幹神経核							
13	聴覚皮質							
14	遠心路							
15	感音性難聴							
【 準備学習・時間外学習 】								
【 使用テキスト 】								
書籍名			著者名			出版社		
なし・配布プリント								
【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】								
試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。								